

（1）大学・学科の設置理念

①大学

学校法人群馬育英学園は、「正直・純潔・無私・愛」の4つの道義標準に基づき、昭和33年に群馬県における学校法人として設置され、昭和45年に前橋保育専門学校を開設した。その後、昭和52年に育英短期大学として改組し、「公正・純真・奉仕・友愛」の道德理念を培い、つねに国際的視野に立って世界の平和と社会の福祉に貢献できる人材を育成することに努め、地域に根ざした高等教育の場としての役割を果たしてきた。その結果、地域社会における高等教育機関としての存在感と重要性を高め、これまで1万人以上の有為な人材を輩出してきた。

近年、少子化による18歳人口の減少や高学歴志向の高まりなど、高等教育を取り巻く社会情勢は急速に変化しており、地域社会の要請や進学希望者の進学意向を見極めつつ、高等教育機関としての個性や特色を一層明確にすることが必要である。また、学術研究の高度化に伴い、大学教育が対象とする専門領域も広がってきており、進学希望者の興味や関心、学習意欲に柔軟に応えつつ、学術研究の進展や進学希望者の動向をふまえて教育組織を整備、充実することも必要である。

今後、本学園が地域社会や進学希望者の期待や要請に応え、高等教育機関としての多様化や個性化を推進していくために、自らの責任において教育組織の構築や教育内容の充実、教育方法の改善などの新たな取組に格段の努力を注ぎ、学校法人群馬育英学園の「育英」が意味する「すぐれた才知をもつ青少年を教育すること」をさらに具現化していくことが重要である。以上により、平成30年4月に群馬県高崎市京目町に「育英大学」を設置することとした。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

教育振興に関する施策として、国は平成18年の教育基本法の改正を契機に、新たな教育の目標・理念に基づく取組を進めている。本学が位置する群馬県では、国における教育改革の流れをふまえつつ地域の実情に応じて、「群馬県教育振興基本計画」を策定した。現在では「群馬県教育振興基本計画」の4期目として「変化の激しい社会に対応できる資質・能力の育成」や「時代の変化に対応した教育イノベーションの推進」等を重点政策とする「群馬県教育ビジョン」を策定し、教育振興に努めている。また、高崎市でも「学力向上への取組」や「多様な教育環境の充実」等を重点施策とする「高崎市教育大綱」を策定している。

英語教育に関する政策として、群馬県では「第4期群馬県教育振興基本計画」の中で変化の激しい社会に対応できる資質・能力の育成のために、「外国語教育の充実」を掲げている。また、群馬県には、2021年時点でも約6万人の在留外国人が住んでおり、現在も増加傾向にあるため「群馬県多文化共生・共創推進基本計画」を策定し、英語を通じて円滑なコミュニケーションを図ることを目指し、その実現のための人材養成が急務となっている。さらに、令和6年度の「群馬県英語教育改善プラン」の中では、グローバルな視点で地域社会の活性化を担う人材を養成するための具体的な施策が展開されている。

このような地域の要望を実現させるため、建学の精神に則り、豊かな人間性と深い専門性を持ち、学校教育や幼児教育、子ども・子育て支援、体育・スポーツ教育、健康教育、英語教育を担う質の高い人材を養成し、教育研究を通して地域社会に貢献することを目的として、「教育学部」を設置することとした。

教育学部は、教育学科（入学定員200名）からなる1学部1学科構成とし、学科の下に3つの専攻を設けている。

専攻は、教育学の専門的知識に基づき、地域社会が求める良質な教育や保育の提供・環境整備、子どもの健やかな成長に対応できる人材を養成するため、幼稚園・小学校教諭免許状、保育士資格等を取得できる「児童教育専攻」と、子どもが学校や地域等において健康と体力向上を図るスポーツ機会の充実、住民の地域スポーツ環境の整備に対応できる人材を養成するため、中学校・高等学校教諭免許状（保健体育）等を取得できる「スポーツ教育専攻」の2つの専攻に加え、新たに「英語教育専攻」を設ける。「英語教育専攻」では、中学校・高等学校教諭免許状（英語）を取得することができ、その学修の過程でグローバル化時代の基盤的能力である外国語を使用でき、異文化を理解して地域社会の異文化コミュニケーションへの認識を深めることのできる人材を養成することを目指す。

また、本学園では、育英短期大学保育学科及び同短大と高大連携を推進している前橋育英高等学校の保育科において保育・幼児教育を行い、普通科スポーツ科学コースにおいてスポーツ教育を行ってきたことに加え、同短大では留学や中学校教諭二種免許状（英語）の取得に力を入れている。これにより、学校教育や幼児教育、子ども・子育て支援、体育・スポーツ教育、健康教育、英語教育に取り組んできていることもあり、専攻を「児童教育専攻」と「スポーツ教育専攻」、「英語教育専攻」とした。

（2）教員養成の目標・計画

①大学

育英大学は、教育基本法及び学校教育法に基づき、学術の中心として広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を育成するとともに、「公正、純真、奉仕、友愛」の建学の精神に則り、豊かな人間性と深い専門性をもつ人材を養成し、教育研究を通して地域社会に貢献することを目的とする。

また、教育学部では、「幅広い教養基盤に支えられた主体的な判断力と行動力を有し、理論と実践に基づいて応用的に教育活動を展開できる人材」の養成を目的し、以下のような教員を養成する構想を持っている。

- ・ 教育現場に求められる教養的知識を修得し、専門的職業人としての役割を果たすことができる。
- ・ 教育学の基礎的知識と教員の資質能力を修得し、教育者として主体的に判断し行動することができる。
- ・ 教科指導や生徒指導に必要な知識や技能を修得し、教育活動を実践することができる。
- ・ 教育現場における諸課題を探究し、その成果を教育活動の実践に活かすことができる。
- ・ 教育学及び関連分野の基礎的理論と専門的知識を修得し、教育研究を通して地域社会に貢献することができる。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

教育学科は、建学の精神に則り、「幅広い教養基盤に支えられた主体的な判断力と行動力を有し、理論と実践に基づいて応用的に教育活動を展開できる人材」を養成することを目的とする。その中に設置し今回認定を受けようとする英語教育専攻の目的は、以下の通りである。

<英語教育専攻>

英語教育専攻（入学定員20名）は、多様な価値観や文化への関心を持ち、地域性を考慮した

グローバルな視点を合わせ持つ多面的な見方・考え方によって、国際社会で活躍できるグローバル人材を養成することを目的とし、以下のような教員を養成する構想を持っている。

- ・ 専攻DP①：英語教育現場に求められる教養的知識を修得し、専門的職業人としての役割を果たすことができる。
- ・ 専攻DP②：英語教育の歴史、思想、制度に関する基礎的な知識と教員に求められる資質・能力を修得し、英語教育者として主体的に判断し行動することができる。
- ・ 専攻DP③：生徒理解や教育相談に関する基礎的知識、技能とともに英語教科に関する専門的知識、技能を修得し、英語教育現場において教育活動を実践することができる。
- ・ 専攻DP④：生徒理解や学級経営等に関する諸課題を探究し、修得した英語教育者としての基本的資質・能力を使命感と責任感をもって教育活動の実践に活かすことができる。
- ・ 専攻DP⑤：英語の構造と機能、4技能を踏まえた英語コミュニケーションなどの基礎的理論と専門的知識を修得し、教育研究を通して地域社会に貢献することができる。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

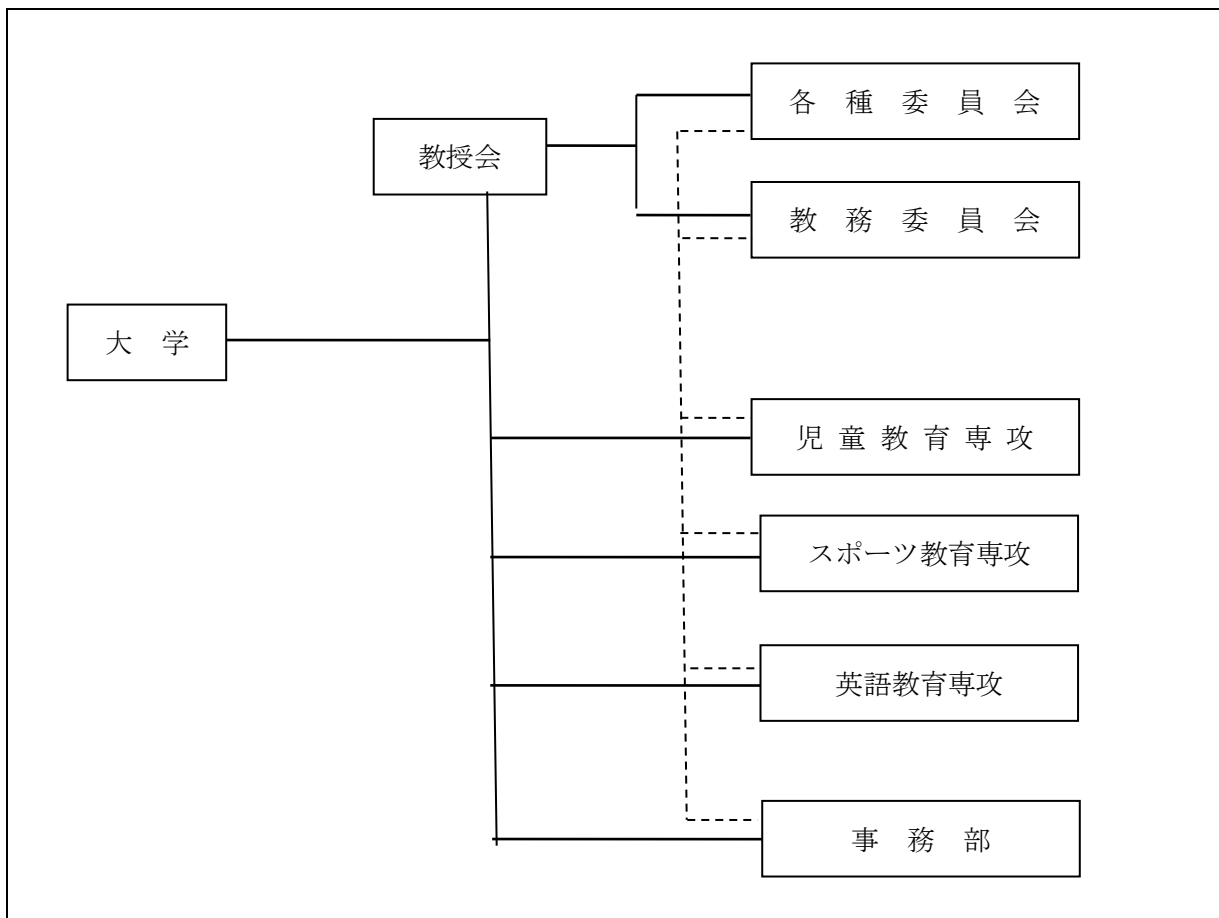
上述したように、地域社会は国の基本方針を受け、教育の振興にむけて、学校教育や英語教育などの施策を推進しており、それらを支える質の高い人材の確保及び養成を求めている。このことから、育英大学は幅広い教養基盤に支えられた主体的な判断力と行動力を有し、理論と実践に基づいて応用的に教育活動を展開できる人材を養成するために教育学部教育学科を設置し、英語教育専攻には中学校・高等学校教諭（英語）養成課程を置くこととする。

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

組織名称：	教務委員会
目的：	大学における教育課程及び教務に関する事項の審議機関
責任者：	委員長（教務部長）
構成員（役職・人数）：	教務部長、各専攻から選出された教員 若干人、教務課長、学長指名 若干人
運営方法：	<p>教授会の下に、教務委員会を置き、毎月1回の定例会議と必要に応じて開催する臨時会議を行う。</p> <p>審議事項は、①教育課程及び授業計画、②教職指導の企画、立案及び実施、③教職実践科目の実施と評価、④学生の卒業及び成績認定、⑤学籍の異動（退学、転学、転専攻、休学及び除籍等）、⑥授業方法の改善及び推進、⑦非常勤講師、⑧各種委員会等から依頼された事項、⑨その他教務に関する事項について審議する。</p> <p>審議事項は、教授会に諮られ、又は報告され、各専攻と事務部が連携して実施に当たる。また、必要に応じて他の委員会と連携・協議して実施に当たる。</p>

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

【群馬県教育委員会との連携協力に関する覚書の締結】

群馬県教育委員会と相互に連携協力し、教育委員会と大学が有する資源や機能等を効果的に活用して、学校教育と学術の振興及び地域教育の充実と発展に寄与する人材の育成を図るために覚書を締結した。連携の内容は(1) 学校における教育活動への支援、(2) 教育実習への協力、(3) その他連携協力に必要な事項である。

【高崎市教育委員会との連携協力に関する覚書の締結】

高崎市教育委員会と相互の連携協力を目指して、教育委員会と大学が有する資源や機能等を効果的に活用することにより、地域教育の充実と発展に寄与する人材の育成を図るための覚書を締結した。連携の内容は、両者がその都度協議して定めるものとしている。

【前橋市教育委員会との連携協力に関する協定の締結】

前橋市教育委員会と地域における互いの教育連携の確立と教育力の向上に資するため、協定を締結した。連携の内容は、(1) 学校教育に関する事項、(2) 生涯学習に関する事項、(3) その他協議により必要と認める事項である。

【伊勢崎市教育委員会との連携協力に関する覚書の締結】

伊勢崎市教育委員会と伊勢崎市立学校への教育活動支援を通じて相互に連携協力し、将来の地域社会を担う国際的視野に立った人材育成を図るための覚書を締結した。連携の内容は、(1) 教育・研究分野での連携・協力、(2) 教育活動への支援、(3) 教育情報等の提供、(4) その他である。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称： 「初等中等学校体験活動 A・B」(教職課程科目)

連携先の調整方法： 科目担当教員が前橋市教育委員会と活動先、日程、内容の連絡・調整を図る。

具体的な内容： 中学校におけるボランティア活動を通じて、教職を志望する学生が現場における教員の業務を理解し、自身の適性と教職への志を確認するとともに、将来的に必要な教育実践力を培うことを目的とする。活動内容は、各実習先で人手不足となっている業務(授業補助、学校行事の運営補助、部活動の指導補助等)への従事とし、活動時間は30時間以上とする。学生は日誌に学内オリエンテーションの内容、実習先での事前打合せの内容、実施日、活動時間、活動先、活動内容、累計活動時間、振り返り等を記録し、科目担当教員に提出する。また、活動先ごとに活動終了時、担当教職員から署名及び押印を受けた「体験活動記録表」を作成し、併せて提出する。

Ⅲ. 教職指導の状況

本学は学生一人ひとりの学修姿勢を重視し、それぞれの事情に寄り添いつつ、学修を最優先に考えた指導を徹底している。教職課程においても同様であり、以下のとおり継続的かつ安定的な学修指導・支援を行っている。

【教職課程のオリエンテーション】

1年次から4年次まで、毎年4月に各学年で「履修オリエンテーション」を実施している。また、2年次および3年次の春季休業期間中には「教育実習オリエンテーション」を行い、教育実習に向けた必要事項を周知している。これらのオリエンテーションによって、学生が教員免許取得までの道筋を理解し、計画的に学修を進められる体制を整えている。

【履修指導】

教職関係科目の履修指導については、各学年段階に沿って教職科目を配置し、教育実習までに関連科目をすべて履修できるようカリキュラムを編成している。また、「教育の基礎的理解に関する科目等」のコアカリキュラム及び英語コアカリキュラムを踏まえ、授業計画やシラバスを作成し、教員免許取得が円滑に進むよう配慮している。さらに、各学年段階の年度末には「履修カルテ」を作成し、1年間の教職に関する履修状況を振り返り、進捗を確認できるよう指導している。

【教職課程の支援体制】

学生が教職課程で抱える不安や疑問に対応するため、教務課とは別に「教職・実習サポート室」を設置し、専門的な職員が常駐することで随時相談できる体制を確立している。これにより学生の教職への意欲を高め、不安を解消することが可能である。また、教員が主体となって組織する「教職サークル」においては、教員採用試験対策を希望する学生を支援し、多くの学生が志望する自治体の教員採用試験に合格できるよう指導を充実させている。

様式第7号ウ

＜教育学科英語教育専攻＞（認定課程：中一種免 英語）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>中学校教諭に必要な資質・能力の基礎となる次の能力の育成を到達目標とする。</p> <p>①教育者として備えるべき基礎的な知識や能力を修得する。 ②学校体験活動での現場体験を通して、中学校教諭(英語)を目指す意識や使命感を高める。 ③教職に関する基礎的素養(憲法・体育・英語・情報等)を修得する。 ④英語の音声の仕組みや語形成の規則、歴史的変遷について理解する。 ⑤多聴で聞いた英語文章を理解し、流暢な英語で話す力を修得する。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、中学校教諭に必要な資質・能力の基礎となる次の能力の育成を到達目標とする。</p> <p>①教育者として備えるべき基礎的な知識や能力を修得する。 ②情報活用・英語の応用力を修得する。 ③教育に関する社会的・制度的事項を学び、特別支援教育の理念や仕組みについて理解する。 ④英語における語や文の構造や文の持つ意味を中心に、さらに社会と英語との関係、英語の習得、コミュニケーションなどについて理解する。 ⑤英語でスライドを制作して発表するとともに、基礎的なディベートができる力を修得する。</p>
2年次	前期	<p>中学校教諭免許状の取得に必要な科目を履修することにより、次の専門知識等を修得することを到達目標とする。</p> <p>①教育課程編成の基本的な要素(教育目標、学習指導要領、科目の関連性等)の知識を修得する。 ②教育内容をいかに正しく効果的に教え授けるかによって教育目的・目標を達成することができるかを理解する。 ③第二言語習得の基本的概念を理解し、英語の特徴を踏まえたうえで、第二言語習得理論を英語学習および教育に応用できる。 ④英語文学作品の背後にある歴史のおよび文化的背景を理解している。 ⑤多聴で聞いたものについてのリスパンスの録音報告で、流暢な英語で話すことができる。 ⑥中学校における英語の学習指導に関する基本的な知識を修得する。 ⑦学生の理解度に応じて、英語の実践力を身につける。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、中学校教諭免許状の取得に必要な科目を履修することにより、次の専門知識等を修得することを到達目標とする。</p> <p>①道徳の特徴、道徳教育の歴史、道徳の授業で用いる方法等の知識を修得する。 ②情報に関して倫理的態度を持ち、ICT技術を活用しながら効果的な教育方法を実践できる力を修得する。 ③各時代区分における代表的な英語文学作品を読み、その内容と特徴的な英語表現を理解し、作品を多様な角度から論じる力を修得する。 ④基礎的なディベートを行うことができ、グループでの英語のポッドキャストの配信ができる英語力を修得する。 ⑤異文化コミュニケーションのメカニズムについて理解し、文化的背景が異なる人々とのコミュニケーションにおいて生じた問題に対処しながら、適切にコミュニケーションをおこなえる力を修得する。 ⑥中学校における英語の学習指導に関する基本的な知識し、その知識の授業実践への活用方法を考えられ、英語教員として必要な指導力の基礎が身につけている。</p>
3年次	前期	<p>中学校教諭免許状の取得に必要な科目を履修することにより、次の専門知識等を修得することを到達目標とする。</p> <p>①学校の役割と各職種(校長・教頭・学年主任等)を理解した上で、学校・学級経営の知識を修得する。 ②総合的な学習の時間の指導計画の作成及び指導方法と評価に関する知識・技能を修得する。 ③生徒からの幅広い学校生活相談を理解する。また、高等学校への進学支援や社会への就職支援としての進路指導力を修得する。 ④英語学の知見を日本語と比較から音声の仕組みや文法についての理解を深め、学習法・教授法を修得する。 ⑤英米及び英語圏の様々な文学作品におけるテーマ、プロット、登場人物の描かれ方および歴史的、文化的背景について理解し、多様な角度から作品を解釈する力を修得する。 ⑥英語のアカデミック・ライティングのフォーマットの慣例を学び、アカデミック・ライティングの力を修得する。 ⑦中学校の授業で生徒の実態に応じた適切な指導を展開するための基本的な知識を修得する。</p>

3年次	後期	<p>前期に引き続き、中学校教諭免許状の取得に必要な科目を履修することにより、次の専門知識等を修得することを到達目標とする。</p> <p>①特別活動(学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事等)の各分野を学びつつ、「学級活動」の知識を修得する。</p> <p>②中学校での様々な場面における相談に対応できるように、教育相談の基礎理論を学び、相談技術を修得する。</p> <p>③中学校における学級経営や教科の指導以外における教員の役割、あるいは教育現場の実情について体験し、教育現場を広い視野で深く理解できる。</p> <p>④英語学的知見についての理解を深め、英語学の知見を英語科教育(4技能)へ応用できる力を修得する。</p> <p>⑤英語の文学作品を原作で読み、ストーリーの展開とともに、文学によって描かれた世界を多方面から解釈する力を修得する。</p> <p>⑥段落からエッセイの形へと発展させながら、定義・因果関係の形式で英語を用いて原稿を書く力を修得する。</p> <p>⑦英語教育の知識を応用し、学習指導案作成・模擬授業・振り返り等を通して、実践に応用できる学習指導の基礎的な力を修得する。</p> <p>⑧集団における心理を学習しつつ、英語教育に関する模擬授業を通して実践力を身につける。</p>
4年次	前期	<p>中学校教諭免許状の取得を目指して3年間に学習した成果と培ってきた知識をもとに、教育現場での実習を行い、教員になる自覚の涵養を目指す。</p> <p>①実習の事前指導を通して、中等教育の内容・方法・計画等を総合的に復習し、広い視野から中等教育を理解する。また、中等教育の現場についての理解を深め、実習における心構えや動き、日誌や指導案の書き方を身につける。</p> <p>②教育実習を通して現場での動きを学ぶとともに、教員としての専門性及び実践力を身につける。</p> <p>③実習の事後指導を通して実習での取り組みや反省点、課題点をあげ、残りの学生生活で改善意識を高め、スキルアップを目指す。また、将来の専門的職業人としての自覚を持ち、教員となる意識を高める。</p>
	後期	<p>中学校教諭免許状の取得を目指してこれまでに学習した成果と知識に加え、実習から得た課題認識をもとに4年間の集大成を作る。</p> <p>①これまでの学習によって修得した中学校教諭としての知識・資質・能力について見直し、自分の強みと弱みを客観的に評価した上で、強みをさらに強化し弱みを補い、教育現場へ向かうための仕上げをする。</p> <p>②自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追求する力を修得する。</p> <p>③指導教員のもとに卒業研究に取り組み、中等教育における自己の専門分野を深めるとともに、教員として学び続ける意識を身につける。</p>

様式第7号ウ

＜教育学科英語教育専攻＞（認定課程：高一種免 英語）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>高等学校教諭に必要な資質・能力の基礎となる次の能力の育成を到達目標とする。</p> <p>①教育者として備えるべき基礎的な知識や能力を修得する。</p> <p>②教職に関する基礎的素養(憲法・体育・英語・情報等)を修得する。</p> <p>③英語の音声の仕組みや語形成の規則、歴史的変遷について理解する。</p> <p>④多聴で聞いた英語文章を理解し、流暢な英語で話す力を修得する。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、高等学校教諭に必要な資質・能力の基礎となる次の能力の育成を到達目標とする。</p> <p>①教育者として備えるべき基礎的な知識や能力を修得する。</p> <p>②情報活用・英語の応用力を修得する。</p> <p>③教育に関する社会的・制度的事項を学び、特別支援教育の理念や仕組みについて理解する。</p> <p>④英語における語や文の構造や文の持つ意味を中心に、さらに社会と英語との関係、英語の習得、コミュニケーションなどについて理解する。</p> <p>⑤英語でスライドを制作して発表するとともに、基礎的なディベートができる力を修得する。</p>
2年次	前期	<p>高等学校教諭免許状の取得に必要な科目を履修することにより、次の専門知識等を修得することを到達目標とする。</p> <p>①教育課程編成の基本的な要素(教育目標、学習指導要領、科目の関連性等)の知識を修得する。</p> <p>②教育内容をいかに正しく効果的に教授するかによって教育目的・目標を達成することができるかを理解する。</p> <p>③第二言語習得の基本的概念を理解し、英語の特徴を踏まえたうえで、第二言語習得理論を英語学習および教育に応用できる。</p> <p>④英語文学作品の背後にある歴史のおよび文化的背景を理解している。</p> <p>⑤多聴で聞いたものについてのリスパンスの録音報告で、流暢な英語で話すことができる。</p> <p>⑥高等学校における英語の学習指導に関する基本的な知識を修得する。</p> <p>⑦学生の理解度に応じて、英語の実践力を身につける。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、高等学校教諭免許状の取得に必要な科目を履修することにより、次の専門知識等を修得することを到達目標とする。</p> <p>①情報に関して倫理的態度を持ち、ICT技術を活用しながら効果的な教育方法を実践できる力を修得する。</p> <p>②各時代区分における代表的な英語文学作品を読み、その内容と特徴的な英語表現を理解し、作品を多様な角度から論じる力を修得する。</p> <p>③基礎的なディベートを行うことができ、グループでの英語のポッドキャストの配信ができる英語力を修得する。</p> <p>④異文化コミュニケーションのメカニズムについて理解し、文化的背景が異なる人々とのコミュニケーションにおいて生じた問題に対処しながら、適切にコミュニケーションをおこなえる力を修得する。</p> <p>⑤高等学校における英語の学習指導に関する基本的な知識し、その知識の授業実践への活用方法を考えられ、英語教員として必要な指導力の基礎が身につけている。</p>
3年次	前期	<p>高等学校教諭免許状の取得に必要な科目を履修することにより、次の専門知識等を修得することを到達目標とする。</p> <p>①学校の役割と各職種(校長・教頭・学年主任等)を理解した上で、学校・学級経営の知識を修得する。</p> <p>②総合的な学習の時間の指導計画の作成及び指導方法と評価に関する知識・技能を修得する。</p> <p>③生徒からの幅広い学校生活相談を理解する。また、大学等への進学支援や社会への就職支援としての進路指導力を修得する。</p> <p>④英語学の知見を日本語と比較から音声の仕組みや文法についての理解を深め、学習法・教授法を修得する。</p> <p>⑤英米及び英語圏の様々な文学作品におけるテーマ、プロット、登場人物の描かれ方および歴史的、文化的背景について理解し、多様な角度から作品を解釈する力を修得する。</p> <p>⑥英語のアカデミック・ライティングのフォーマットの慣例を学び、アカデミック・ライティングの力を修得する。</p> <p>⑦高等学校の授業で生徒の実態に応じた適切な指導を展開するための基本的な知識を修得する。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、高等学校教諭免許状の取得に必要な科目を履修することにより、次の専門知識等を修得することを到達目標とする。</p> <p>①特別活動(学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事等)の各分野を学びつつ、「学級活動」の知識を修得する。</p> <p>②高等学校での様々な場面における相談に対応できるように、教育相談の基礎理論を学び、相談技術を修得する。</p> <p>③英語学的知見についての理解を深め、英語学の知見を英語科教育(4技能)へ応用できる力を修得する。</p> <p>④英語の文学作品を原作で読み、ストーリーの展開とともに、文学によって描かれた世界を多方面から解釈する力を修得する。</p> <p>⑤段落からエッセイの形へと発展させながら、定義・因果関係の形式で英語を用いて原稿を書く力を修得する。</p> <p>⑥英語教育の知識を応用し、学習指導案作成・模擬授業・振り返り等を通して、実践に応用できる学習指導の基礎的な力を修得する。</p> <p>⑦集団における心理を学習しつつ、英語教育に関する模擬授業を通して実践力を身につける。</p>

4年次	前期	<p>高等学校教諭免許状の取得を目指して3年間に学習した成果と培ってきた知識をもとに、教育現場での実習を行い、教員になる自覚の涵養を目指す。</p> <p>①実習の事前指導を通して、中等教育の内容・方法・計画等を総合的に復習し、広い視野から中等教育を理解する。また、中等教育の現場についての理解を深め、実習における心構えや動き、日誌や指導案の書き方を身につける。</p> <p>②教育実習を通して現場での動きを学ぶとともに、教員としての専門性及び実践力を身につける。</p> <p>③実習の事後指導を通して実習での取り組みや反省点、課題点をあげ、残りの学生生活で改善意識を高め、スキルアップを目指す。また、将来の専門的職業人としての自覚を持ち、教員となる意識を高める。</p>
	後期	<p>高等学校教諭免許状の取得を目指してこれまでに学習した成果と知識に加え、実習から得た課題認識をもとに4年間の集大成を作る。</p> <p>①これまでの学習によって修得した高等学校教諭としての知識・資質・能力について見直し、自分の強みと弱みを客観的に評価した上で、強みをさらに強化し弱みを補い、教育現場へ向かうための仕上げをする。</p> <p>②自己の問題意識に基づき、現代的教育課題と関連させながら、自律的に追求する力を修得する。</p> <p>③指導教員のもとに卒業研究に取り組み、中等教育における自己の専門分野を深めるとともに、教員として学び続ける意識を身につける。</p>

様式第7号ウ（教諭）

<教育学科英語教育専攻>（認定課程：中一種免 英語）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教育学概論(中・高)	英語学概論Ⅰ		情報処理法	
		初等中等学校体験活動A	Reading & VocabularyⅠ		英語Ⅰ(基礎)	
					健康と運動	
					社会と憲法	
	後期	教職概論(中・高)	英語学概論Ⅱ		情報活用法	
		教育行政学(幼・小・中・高)	Reading & VocabularyⅡ		英語Ⅱ(応用)	
		教育心理学				
		特別支援教育論				
2年次	前期	中等教科教育法Ⅰ(英語)	第二言語習得論	介護等体験活動		
		教育課程論(中・高)	英語文学概論Ⅰ			
			Listening & SpeakingⅠ			
	後期	中等教科教育法Ⅱ(英語)	英語文学概論Ⅱ			
		道徳の指導法(小・中)	Listening & SpeakingⅡ			
		教育方法論(ICT活用を含む)	異文化理解			
3年次	前期	中等教科教育法Ⅲ(英語)	英語学演習Ⅰ			
		学校・学級経営	英語文学演習Ⅰ			
		総合的な学習(探究)の時間の指導法(小・中・高)	WritingⅠ			
		生徒・進路指導の理論と方法(小・中・高)	Skills-Integrated English CommunicationⅠ			

3年次	後期	中等教科教育法Ⅳ(英語)	英語学演習Ⅱ			
		特別活動の指導法(小・中・高)	英語文学演習Ⅱ			
		教育相談の理論と方法(幼・小・中・高)	WritingⅡ			
		初等中等学校体験活動B	Skills-Integrated English CommunicationⅡ			
4年次	前期	中等教育実習事前事後指導				
		初等中等教育実習(小・中)				
		中等教育実習(中・高)				
	後期	教職実践演習(中・高)				

様式第7号ウ（教諭）

＜教育学科英語教育専攻＞（認定課程：高一種免 英語）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教育学概論(中・高)	英語学概論Ⅰ		情報処理法	
			Reading & VocabularyⅠ		英語Ⅰ(基礎)	
					健康と運動	
					社会と憲法	
	後期	教職概論(中・高)	英語学概論Ⅱ		情報活用法	
		教育行政学(幼・小・中・高)	Reading & VocabularyⅡ		英語Ⅱ(応用)	
		教育心理学				
		特別支援教育論				
2年次	前期	中等教科教育法Ⅰ(英語)	第二言語習得論			
		教育課程論(中・高)	英語文学概論Ⅰ			
			Listening & SpeakingⅠ			
	後期	中等教科教育法Ⅱ(英語)	英語文学概論Ⅱ			
		教育方法論(ICT活用を含む)	Listening & SpeakingⅡ			
			異文化理解			
3年次	前期	中等教科教育法Ⅲ(英語)	英語学演習Ⅰ			
		学校・学級経営	英語文学演習Ⅰ			
		総合的な学習(探究)の時間の指導法(小・中・高)	WritingⅠ			
		生徒・進路指導の理論と方法(小・中・高)	Skills-Integrated English CommunicationⅠ			

3年次	後期	中等教科教育法Ⅳ(英語)	英語学演習Ⅱ			
		特別活動の指導法(小・中・高)	英語文学演習Ⅱ			
		教育相談の理論と方法(幼・小・中・高)	WritingⅡ			
			Skills-Integrated English CommunicationⅡ			
4年次	前期	中等教育実習事前事後指導				
		中等教育実習(中・高)				
	後期	教職実践演習(中・高)				